

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 5月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	2278100165
法人名	有限会社アートプロジェクト
事業所名	グループホーム 桜葉の家
所在地 (電話番号)	静岡県浜松市北区細江町中川4589番地の4 053-527-3600
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年3月21日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 12 月 1日				
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計		27	人
職員数	20 人	常勤 15 人, 非常勤 5 人,		常勤換算 13・9	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	4 階建て	2 階 ~ 4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,700円		その他の経費(月額)	22,300円	
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)		有りの場合 償却の有無	有／無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		1、500円		

(4) 利用者の概要(平成20年 2月 1日現在)

利用者人数		25 名	男性	11 名	女性	14 名
要介護1		2	名	要介護2	6	名
要介護3		8	名	要介護4	7	名
要介護5		1	名	要支援2	1	名
年齢	平均	79.3歳	最低	61歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菅沼内科消化器科医院 長田医院 鳥居歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

浜松市北部郊外に位置し、国道362号線と天竜浜名湖鉄道線との間に建てられている4階建てのホームである。1階部分には通所介護施設、2階から4階までをグループホームとして使用している。開設して5年余経ち、入居者の一部にはレベルダウンがみられ、日常的な散歩も以前のようには出かけられない状況も見られる。しかし、ホームからの眺めがよく電車に手を振ったり、初日の出を拝んだり、四季折々の景色を眺めたりしながらの生活もあり、職員の関わりや工夫により、入居者の心は和まされている。「どの人にもその日1日、気持ちよく楽しく暮らせるように心がけている」と言う職員の言葉に表されるように利用者のペースや気持ちを大事にした、利用者中心の支援をしているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題として契約書・重要事項説明書などに、権利義務について明示するように指摘されているが、まだ記述されていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、各ユニットごとに職員みんなで相談して記入するようにし、評価の意義やねらいを、職員にも認識させるよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、19年度7月に初回として1回開催したものの、その後は都合がつかず実行出来ず終いである。今後は、新年度当初に定期的に実施できるよう計画を立てることで会議が確実に実現されるよう期待したい。また幅広い立場の人が参加する会議とし、参加メンバーの人々に運営推進会議の意義や役割を十分理解してもらえるよう働きかけることが求められる。施設のサービスの実際や状況報告などを話し合いサービスの向上に活かされることが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会はないが、行事などを通しての集まりがあり、なんでも言ってもらえる雰囲気作りをしている。また、日ごろから、館長はじめ職員は、利用者の心身の状況や暮らしぶりについてよく話しており、家族から信頼を得ている。家族の訪問は多いが、訪問回数の少ない家族には、伝わっていないことや理解されていないこともあるので、お便りを定期的に出すなど工夫されるよう望みたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ボランティアの受け入れ、小学生との交流がある。近くの消防署へは、見学や散歩に出かけつながりやを大事にしている。また地域住民とは挨拶を交わすよう努めており、果物や野菜を頂くこともあり地元との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所理念に加えて、今年度は地域密着型サービスとしての理念「趣味で結ぶ、地域の力」「楽しく暮らせる、第2の我が家」を掲げ全職員で取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所やフロア内に掲示すると共に、朝礼や職員会議等で理念について話し合い共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアの受け入れ、また小学校との交流があり児童がホームに来てのふれあいの場がある。近隣の消防署へ見学や散歩に出かけ、住民の方と挨拶を交わしたり、時には、季節の果物や野菜を頂くなど地元との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットごと職員で相談して自己評価に取り組んでおり、実施する意義を理解している。外部評価を受けることにより、更なるサービスの質の向上を目指している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は初回として7月に実施され、施設の紹介及び、家族や地域の方々の意見・要望などについて話し合いサービス向上に活かしている。しかし、その後の実施が見られない。	○	運営推進会議は、定期的(2ヶ月に1回)に開催できるよう年度当初計画されるよう望みたい。また、構成メンバーも各方面の方々が参加する会議とし、参加メンバーの人々が運営推進会議の意義や役割を理解して、積極的に参加してもらえるよう働きかけ、地域との結びつきを深められるよう期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、市の介護相談員の訪問を受け入れている。また、隔月開催される区の情報交換会にも参加し、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には、館長はじめ職員は、利用者の心身の状況や暮らしぶりについてよく話しをしており、多くの家族から信頼を得ている。	○	全体的に家族の訪問回数は多いが、訪問回数の少ない家族には伝わっていないことや理解されていないこともある。お便りを出すなど工夫されるよう望みたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は作っていないが、家族同士の集まる機会もあり、何でも伝えてもらえるような雰囲気作りに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職もあり、職員の確保にも努力されている現状があるが、職員と利用者の馴染みの関係の大切さは理解しており、利用者個々に対しての影響を考慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は段階的(A過程・B過程・AA過程)に法人内の研修が組み込まれており、法人外の研修にも参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1度実施される地域の館長会には積極的に参加し情報交換に努めている。勉強会を含めて、ケアサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が安心して落ちついた生活が出来るよう、生活暦、趣味など参考にしながら対応し、家族とも相談しながら、ホームの雰囲気に慣れるように丁寧に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員が、利用者の立場に立ち、共に笑い、楽しみながら互いに支えあえる関係作りに、取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の話をゆっくりと聞き、本人の顔を見ながら声をかけている。介護度が高く意思表示が困難な利用者からも、顔色や行動・雰囲気などから利用者の気持ちを汲み取る心遣いをするなど、思いを尊重して利用者の立場になって考えるケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の申し送りやユニット会議・ホーム会議などにより、職員同士の話し合い・意見交換は行われている。しかし、介護計画への家族の意見の記入が少なく、また説明不足だという意見も聞かれた。説明・話し合いを重ね、家族の意見を反映させた計画作成が望まれる。	○	家族の来訪時には職員は明るく接し家族が希望や意向を言いやすい雰囲気づくりがされているが、介護計画について家族に説明し、更に家族の願っていることを聞き出し、計画作成に反映させる取り組みが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活の中で問題点や状況変化を把握し、実情に応じたケアに繋がるよう介護計画を見直している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々利用者や家族の要望に応じて、外出や外泊・通院介助など、状況に合わせた柔軟な支援が行われている。居室に家族が宿泊することも出来る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望にそったかかりつけ医の選択・受診が出来る。協力医療機関での定期健診や往診が受けられ、通院介助も行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人や家族と終末医療についての意向・方針を確認し、状況の変化に応じて家族や医師と相談し対応している。施設での対応が困難な場合は医療機関への入院手続きの支援を行っている。「馴れた所で馴れた人に」「自然に最期を」という家族の強い要望・信頼を受け、看取りの事例がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の失敗を居室で処理するなど、職員は一人ひとりの誇りや尊厳を損なわない声掛けや対応をするように配慮している。また個人情報の取り扱いに留意し、プライバシーの保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「どの人にもその日一日気持ちよく楽しく暮らせるように心掛けている」という職員の言葉に表されるように、利用者のペースや気持ちを大事にした利用者中心の支援をしている。希望により職員見守りの中、喫煙や飲酒をすることも出来る。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は日曜日の手作りの日を楽しみにし、施設の畑で取れた野菜や旬の食材を用いて職員と共に調理する機会を作っている。給食日はお弁当を彩りよくお皿に盛り、咀嚼能力に応じた切り方をして、利用者に合わせた対応をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により毎日でも入浴することが出来る。入浴時間が日中であるため日が高いうちに入浴するのをもったいながる利用者もいるが、職員は「桜葉温泉」と称して、一人でゆっくりあるいは仲の良い利用者同士で入浴を楽しむ取り組みをしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の持てる力を活かして、掃除・洗濯・食事の片付けなどを自分の役割として職員と共に行なっている。利用者の経験や特技を考慮し、花壇や家庭菜園・併設のデイサービスの利用など、楽しみながら生活できるよう支援している。家族と外出をし生け花を楽しむ利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に合わせた奥山・細見公園・豊川菖蒲園などへの花見、初詣・みかん狩り・「杏林堂」「マックスバリュ」への買い物など、利用者の希望や健康状態に配慮しながら外出機会を作り出している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りにより、安全面に配慮しながら自由な生活ができるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の消防署の協力を得て、防災訓練・避難訓練を行なっている。災害に備えての備蓄・職員の緊急連絡網の作成などがなされている。現在は介護度が進んだ利用者の移動方法などが課題となっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量を記録し、一人ひとりの総摂取量を把握している。ミキサー食や刻み食など、利用者一人ひとりに合わせた食事形態や食事介助が行なわれている。水分がいつでも取れるようお茶が用意され、おおまかな水分摂取量が把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは明るく落ち着いた造りになっており、トイレや浴室など安全に自立した生活が送れるよう配慮されている。職員は事故防止に留意しカンファレンス・ケア会議などにより安全に生活できるよう努めている。利用者は食卓テーブルやソファ・居室などそれぞれが好きな場所でくつろいでいた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品が持ち込まれ、居心地良く生活できるよう配慮されている。利用者は家族の写真や趣味の物を飾り、その人らしい居室づくりをしている。仏壇の持込をしている利用者もいる。		